

(1)概要

日時	令和4年11月10日(木)13:30~15:30	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室) 又は情報機密が確保できる場所 ※集合開催、web 開催併用	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか)
	副会長	富永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校)
	委員	藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園)
	委員	川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社)
	委員	牧添 智美(寝屋川支援学校 PTA 代表)
	校長	阪本 友輝
	准校長	藤田 太朗
	事務局	
	事務部長	石川 昌義
	教頭	吉村 晋治 (事務局長)
	教頭	豊島 秀多
	首席	角尾 将司
	首席	西田 宜弘
	首席兼バス部長	坂田 真一
	首席兼教務部長	東川 彩
	指導教諭	日置 節子
	小学部主事	亀村 尚希
	中学部主事	井戸 久美
	高等部主事	西橋 聖次
進路指導主事	坂元 久美子	

(2)議事録

内容	
① 令和4年度学校経営計画進捗状況及び学校評価について ② 感染症対策の変遷について ③ PECS の活用について ④ 学校行事の精選について ⑤ 採択教科書について ※資料掲示	
議事録	
阪本校長	大阪府下では、警戒信号が黄色になったが、学校では対策を講じながら児童生徒の活動は今まで通り進めている。 ① 令和4年度学校経営計画進捗状況及び学校評価について 中期的目標の1. 知的障がい教育の専門性構築

「コミュニケーションを広げよう！」の PECS の導入は 2 年目になり推進している。

「子どものやる気スイッチ ON！」では、初任者、10 年経験者による学ぶ環境作りを今年度は、より一層、部を超えて取組んでいる。研究協議を通してまとめたものを全校で共有している。

「～絆～小中高みんな仲間！」については、3 年振りに運動会を開催し、児童生徒会がスローガン“全力・友情・勇気”を作成し取組む姿から学部の繋がりを感じた。

「そうだ、先輩に聞こう！」では、高等部が育てた野菜を小学部の児童も一緒に収穫するなど、学部間交流が着実に進んでいる。

「限られた中で最大限の力を！」では、これまでの行事の見直しを行い運動会を 1 学期に実施予定。

「GIGA を使って授業をもっとアクティブに！」では、“Google クラクルームのやりとりプランについて”を体験できるように事前学習を行ったりして、この夏休みにはオンラインうえで学校と繋がり休み中のできごと等を投稿してもらった。端末がない家庭においては、持ち帰りができるように検討。

「life ラリー ライブラリー！」では、図書室の利用が増えている。昼休みの放送でもアナウンスをして推進している。

「安全は一人ひとりの気づきから！」は、BCP(事業継続計画)を活用した防災研修や防災訓練を行った。実際の災害を想定した避難訓練を 2 回実施。夏の暑さ、冬の寒さを実際に体験し課題が見えたものとなった。また、アンケートを取りフィードバックして共有。

2. 保護者・地域・関係機関との連携

「保護者に教えてもらおう」では、先日、PTA バスツアーに参加し、保護者と過ごす子どもの一面が見ることができた。

「みんなでピカピカ楽しくピカピカ心はポカポカ！」は、12 月に PTA と中・高の生徒と一緒に地域の清掃活動を行う予定。

「安全第一～SAFETY FIRST!」では、見守りソリューションシステムを導入しバスがどこを走行しているかがわかり有効的に使われている。

3. 働き方改革

「ラク(楽)してはたラク、システムづくり！」では、“ネヤコミ”というシステムを作り全校的に活用。(資料による説明:様々なお便りや行事予定など、学校に関連する情報が集約されている)他校からも、問い合わせがあるなど、画期的なシステムを運用している。

「ペーパーレス化で、神(紙)ですか?!」は、様々な会議でドライブを使い運用。

「もったいない!大事に使おう!使うモノへ!」は、職員室の不要なものを片付け大事なものをいかに使いやすくするか、レイアウトをした。

「仕事サクサク・効率アップ!」は、PC 内のフォルダーを構造化し整理していくことを始めている。

	<p>「鍋蓋型からピラミッド型へ！」は、各首席が2つの校務分掌を統括する体制を整え、分掌長とのヒアリングも終えた。次年度に課題を立てて取組んでいく。</p> <p>4. 地域支援</p> <p>「学びのエエとこどり！」は、支援教育公開講座を開催したところ、申し込みが約400名、満足度も97%であった。リーディングスタッフの依頼も多かった。</p> <p>藤田准校長 高等部について</p> <p>1. 知的障がい教育の専門性向上</p> <p>「明日を拓くキャリア教育プログラムさらなる活用をめざして！」では、全校でキャリア教育プログラムによるアセスメントを実施しているが、適切なグルーピングについては今後の課題。将来的には進路指導で行っていく際の指標の一つにしていきたい。</p> <p>「小さなスキルアップの積み重ね～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分！」では、コース制での学習を充実させ、校内実習などで、自分が制作した物が商品になる達成感を味わい、就労に向けた意欲を育てている。</p> <p>「アップデート！パワチャレタイム！」では、個々の自立活動における課題に週2回取組み、自立に繋がる内容となっている。</p> <p>「磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！」は、人権研修を実施し、発達段階に応じて内容を精査し取組んでいる。</p> <p>2. 保護者・地域・関係機関との連携</p> <p>「はじめよう自主単を！身につけよう社会性！」は、自立した生活を送れるように保護者とも連携を取り行っている。</p> <p>3. 働き方改革</p> <p>「行事の時だけ？それとも通年？総合的に配置しなおします！」は、分掌の再編成配置を含めた人数を検討中。</p>
<p>富永副会長</p>	<p>学校経営計画の中期的目標について、「専門性を高める、保護者・地域との連携、働き方改革」など多岐にわたりしっかり取組まれ質の高い取組みである。特別支援学校はそれぞれに色があり、障がいの特質によるところがある。力を入れている所が見えてくるとポイントがわかり更に質が高まる。今後、何を軸にしていくか、キャリア教育をベースにどう展開していくか、どう特色を出していくか、寝屋川支援学校はどうしていくのか、子ども達の将来像を見据えた実践的な取組みをしていく必要がある。地域を含めた、いろいろな課題があるかと思われるが将来の像として非常に重要である。</p> <p>PECS の活用、防災のテーマの想定、働き方改革など子どもの力にもつながっていく支援のツールになるので重要だと感じる。</p>

山崎委員	<p>③大阪府内外の小・中・高の学校を見てきたが、寝屋川支援学校の“めざす学校像”の「一人ひとりの花を咲かせよう！そしてともに輝こう！」のキャッチフレーズは子どもの良さを伸ばしていく学校づくりが想像されてとても印象的である。支援学校卒業後の目標の位置づけを「自立」として、どうやって一人で生活をしていくのか、専門性を高めている寝屋川支援学校には支援の見本が兼ね備えてある。研修の充実性など様々な取組みを地域の学校も勉強させていただいている。</p>
藤本委員	<p>就学前障がい児施設である当園では、自立性・自発性の基礎を育むことを基本的な目標として、多様な障がいの特性に応じた指導・支援に取り組んでいるが、コミュニケーション支援の1つのツールとして PECS もうまく活用していきたい。働き方改革では、デジタル化を推進されているが、施設の方でも取り入れたいと考えている。現状はパソコン不足でなかなか進まない。</p>
川橋委員	<p>支援学校の雇用を推し進めているところである。コロナ禍で行事が中止になっていたが、高等支援学校での文化祭などで地域との関わりができるようになるのは就労にもつながる。学校として、感染への警戒は必要であるが就労の道筋を作るのも大事。</p>
牧添委員	<p>保護者と先生方とのコミュニケーション不足を感じる。通知表が連絡帳と変わらないように思う。キャリア教育プログラムに沿ったアセスメントを提示してもらう方ができていること、できていないことが分かりやすい。連絡帳について 5cm 四方のスペースに記述が少して、何をしてもらったのかわからないこともある。連絡帳のデジタル化はできないのか。共通の文書はコピペし個人の特記は 1、2 行で済む。写真など掲載してもらえると様子がわかる利点がある。長期休み中の GoogleClassroom の取組みは、他の子どもの取組みが見られて良い。子どもが自分でいろいろ調べて「生活」の時間の新聞に写真を掲載したのにはびっくりした。他の子どもたちも我が子と同じことに興味があることを知ることができて今回のように目に見える取組みであると、保護者も先生方に感謝できる。保護者のことも気にかけてくれると嬉しい。</p>
辻会長	<p>貴重なご意見をいただき、嬉しく思う。 多岐に渡る取組みを家庭にどうお伝えできるか、どうすれば良いか、一人ひとりの成長をサポートしていこうとしているが伝えられていない現状がある。課題であり、悩みでもある。児童・生徒の指導、支援をめぐるっては、教員の健康面も大事であり、管理職の先生方のご苦労されている。 寝屋川支援学校はきめ細かい取組みをしている。課題を浮き彫りにして学校として前を向いた姿勢を評価したい。 学校経営計画及び学校評価については、賛同されているので年度末に向けて取り組んでいただきたい。</p>

坂田首席	<p>② 感染症対策の変遷について コロナ禍における学校での取組みについて紹介(スライドをもとに) ○R4 年度に改訂版を作成 ■各項目の担当者を設定(早く改定できるように) ○授業等における感染予防(紹介) ■10 月に学部ごとに運動会を実施。これからも行事を実施していく。 ○トイレ ■スリッパの数で入室人数の制限 ■手洗い石鹸 ■自動水栓 ○給食 ■ワゴンで学年分を乗せて教室まで運搬→学年廊下まで運搬し、各クラスで教室まで運ぶ。 ■盛り付けは教員で行い、生徒の机まで教員が配膳する。 ■全員が一定の方向へ向き、喫食を行う。 ■下膳は一人ずつ行う。 ○少しずつコロナ前の状況に戻りつつあるので、生徒たちの活動が行えるようにしていく。</p>
山崎委員	<p><質問>④勤務校においては、暑い時にマスクを取ることを推奨していたが、⑤マスクを外したがる児童も多数いた。運動負荷の高い運動は今もできていないがどう対応しているのか。体育の授業や通学時のマスクの扱いはどうしているのか。</p>
坂田首席	<p>→体育の授業では、授業前にアナウンスしているが、マスクを取れない生徒はたくさんいるのが現状。強度の高い運動はできていない。 通学時のスクールバス内ではマスクを着けるようにアナウンスはしている。つけることが難しい児童・生徒はいるので、換気等で対応している。</p>
西田首席	<p>③ PECS の活用について 今年から 2 年目 ワークショップを受講し、指導できる教員の増加(26名) 経験の浅い先生へ、見せて体感できるようにしている。 卒業後にも活用できるツールとしての視点。(研修で実践事例あり) 中学部では、通常の活動の中で活用している。 両職員室の間のスペースを活用し、PECS で活用するカード等を準備し、いつでも誰でも使いやすい環境づくりをしている。 小学部主事より、スケジュールの活用事例を紹介 →自分達でカードを確認して、教員の声かけがなくても自分で行動できる。 ○保健室との連携。 ■怪我の手当て、検診等に見通しを持って行える生徒が増えてきている。 ■器具にも活用 ■自分のタイミングで受診できるように、子どもたちから発信できる形を。</p>

<p>牧添委員</p>	<p>■養護教諭より、学校医への説明→理解 ○保護者との連携 ■研修の紹介 ■ブックの活用(持ち帰り) ■父母とはこれまでもコミュニケーションを取れていたが、祖父母とは取れていなかったことから、PECS を活用している。 ■学校での PECS の取組みを家庭でも取組めるように <意見>視覚的な支援のためにということでは、事前に準備していることがすごく良い取組み。</p>
<p>西田首席</p>	<p>④ 学校行事の精選について ○3大行事の検討 ■コロナが収束しても、以前の形に戻すのではなく、新しい形を作る。 ■次年度より、運動会を1学期、学習発表会を2学期に行う。 ■2学期は行事が多くあったが、普段の授業の取組みを大切に行う。 ○その他行事 ■オンラインでの交流(タイ) ■行事の精選(継続) ■泊行事、校外学習の行き先一覧 ■50周年記念事業 ■新しい形を(オンライン・外注を含めて)</p>
<p>藤本委員 西田首席</p>	<p><質問>R5年度 学習発表会をどのように開催するのか。 →12学年のうち、半分を舞台での発表、半分を動画での上映と考えている。</p>
<p>東川首席</p>	<p>⑤ 採択教科書について ○次年度の使用図書一覧 ■4種類の教科書 ■次年度のシラバスに則って、各担当で教科書を選んでいる。</p>
<p>牧添委員</p>	<p><意見>CD 付きの教科書がある→すごくいい。</p>
<p>藤田准校長</p>	<p>本日の報告事項における、PECS の取組みについては、まずは子どもを見ること、アセスメントをしっかりと行うことそのうえで、いくつもある支援ツールの一つとして選択した場合取組んでいく。寝屋川支援学校の特色の一つにしていきたい。キャリア教育についても PECS の取組みが推進していくことにより、効率の良い学習につながり卒業後に必要な取組みを増やせる可能性がある。学校運営の中では、内容を精査し検討していく必要がある。</p>
<p>吉村事務局長</p>	<p>第3回 2月16日(木) 13:30~15:30に開催予定</p>

--	--